

# 第19回 キャンパスベンチャー グランプリ東北(CVG東北)

ごあいさつ



CVG東北実行委員会委員長 宮本 保彦

今回で19回目を迎える「CVG東北」実行委員会と日刊工業新聞社、東北地区3産業人クラブは、2023年12月19日、仙台市内で最終審査会を開催した。審査の結果、最優秀賞をはじめ5組の入賞者を決定。2月6日、東北3産業人クラブの新春講演会と同時に行う表彰式で代表者に賞状と賞金、記念品が贈られる。

さく、猛威を振るって、おりました。昨年5月の5類移行を契機に、よく収益に向かいつつあります。とはいえ、こ

は大きく変わりました。リモートの普及やDXや「働き改革」の加速、そしてChatGPTに代表される生成AIの普及といった人工知能の飛躍的な進歩などもあり、我々の意識や社会通念もコロナ禍以前から大転換を迫られておられます。このような変革期に皆さんは、起業家精神・チャレンジ精神にあふれ、創造性豊かな感性で社会の課題解決に取り組む、皆さんが自らのアイデアや起業家を地域社会に訴え、周囲を巻き込んでいくことの意義は非常に大きいものがあります。我々も皆さんの活躍を少しでも応援するべく、行政、経済団体、大学など産学を挙げた支援体制を整えます。今回受賞された皆さんが、この東北から日本を代表する存在として活躍されることを切に願っております。このたびの受賞、誠にありがとうございます。

新しい時代のリーダー目指し活躍を

「第19回キャンパスベンチャーグランプリ(CVG東北)」実行委員会と日刊工業新聞社、東北地区3産業人クラブは、2023年12月19日、仙台市内で最終審査会を開催した。審査の結果、最優秀賞をはじめ5組の入賞者を決定。2月6日、東北3産業人クラブの新春講演会と同時に行う表彰式で代表者に賞状と賞金、記念品が贈られる。

## 最優秀賞に高橋さんら

### CVG全国大会に出場

東北6県の学生によるビジネスプランコンテスト「CVG東北」の今大会は、大学・専攻科7校から15件のエントリーがあり、予備審査をくり抜けた5組が最終審査に進出。審査会当日、各組の代表者らが登壇し、7分間のプレゼンテーションと8分間の質疑応答に臨んだ。

委員8人が出席。質疑応答では制限時間ギリギリまで学生との間で突っ込んだやりとりが交わされた。審査委員からの鋭い指摘に素早く答える方も試された。また、今年から協賛・後援企業や産業界の代表者もオブザーバーとして列席。学生の真剣な姿に熱い視線を送った。

最優秀賞には事業構想大学院大学・高橋りなさんら。高橋さんは27日に東京で開催される全国大会へ出場する。

特別賞の東北経済産業局長賞には、弘前大学・佐々木慎一朗さんらのグループ「MediGO」を用いたダイナミックプライシングで医療の待ち時間を適正にする「MediGO」が選ばれた。一部の審査委員が最後まで最優秀賞に推すなど高い評価を得た。同じく特別賞の日刊工業新聞社賞には岩手大学・佐藤啓仁さんらの「農商工連携を効率化させるサービス」が選ばれた。

さらに本審査に進んだ東北福祉大学・関沢さんらの「すぐチア」、および同大学・齋藤春菜さんらの「あなただけで未来を変える」が選ばれた。

「あなただけで未来を変える」の「すぐチア」にも奨励賞の授与を決定。プレゼンした全5組が受賞を果たした。

## 最優秀賞

事業構想大学院大学 高橋りな

山形県立米沢工業 澤雅恭

高等学校専攻科 戸屋康介



代表の高橋さん

## 「お米」自給率向上に貢献

人類が稲をスタートした古くから現代まで食されてきた「お米」。現在は消費量が著しく減少傾向にあり、日本の食料自給率等に大きく影響を及ぼしている。その背景には社会情勢の変化から派生した食文化の多様化も一つの要因と考えられる。そのことは、日々の食生活から摂取できていないはずの必要な栄養素を取りきれないなど、新たな課題を生み出しているのではないかと、そこで、日々の食生活から必要な栄養素を摂取できる食品を開発を行い、消費拡大のための新しい活用法や食事シーンを描き、最終的に「お米」の自給率等を向上させる提案をした。このプランは「お米を食べる」ことから多くの人々の健康に寄与し、また、地域の食料と組み合わせることで農業の6次化を促し、地域活性化の一助を担えるものと考えている。



代表の佐々木さん

## MediGO - NFTを用いたダイナミックプライシングで医療の待ち時間を適正に

「病院の待ち時間はなぜこんなに長いのだろう」。この素朴な疑問から「MediGO」は生まれた。

私たちが病院に行くとき、受付に「診察、処方」の順で受診する。各ステップの間には必ず待ち時間があり、それをどうしようもなく努力を各自がしている。しかし、待ち時間はなかなか短くならない。何故だ

## 特別賞・東北経済産業局長賞

弘前大学

下倉 佑太

齋藤 遥斗

## 予約・診療を自動案内

「予約か? 診察は、既存の診療予約でも医療事務システムが必ず入る。MediGO」はスマートフォンで予約したクリニック用の診療予約システムである。患者が順番待ちの受け付けをしながら診察室に到着するまで、誰の手や目に触れることなく自動的に診察案内が進む。また、患者が到着時間を前後させたとしても、待ち時間に冗長性を持たせていることもポイントだ。

我々は「MediGO」によって、医療人の行う医療行為の価値を最大化させていく。

## 特別賞・日刊工業新聞社賞

岩手大学 佐藤啓仁 齋藤 朱里



代表の佐藤さん

## 農商工連携を効率化させるサービス「カンバンリンク」

### 事業全体像の情報共有に一役

私たちは現在、岩手県で農商工連携に取り組んでいる。取り組みの中の現状として情報共有の効率化、連携の全体像の共有が課題点として挙げられた。スマート農業をはじめとした生産物の効率化が広がる半面、情報共有の効率化に向けたサービスの普及はまだ進んでいないという現状があることを知り、現状の農商工連携の全体像の把握が可能になるというものである。

今後、自分たちが農商工連携の当事者であることを生かし、現場でロボットタイピングを重ねながら開発していく予定である。

## 奨励賞



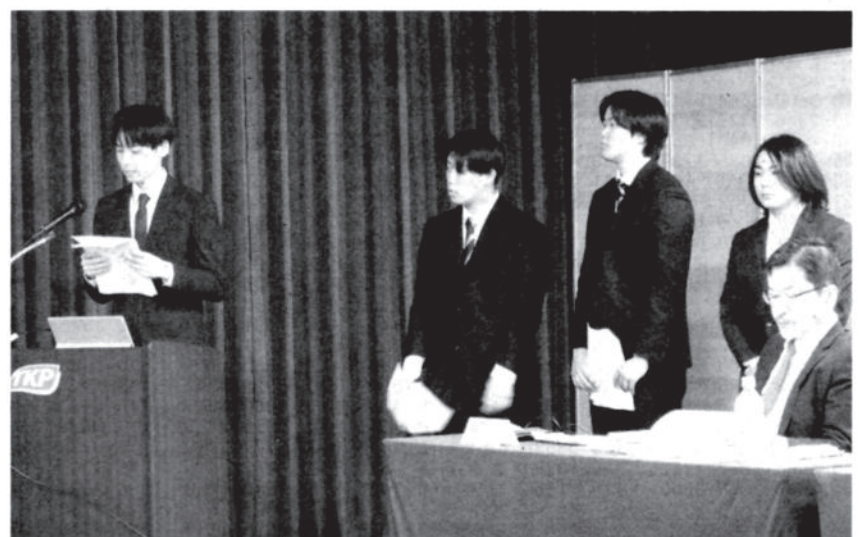
代表の関沢さん

## 応援グッズレンタルにスマートロッカー活用

国民生活で盛り上げていくことが、昨年の歴史的な快挙に大きく影響したと考える。

そこで、私たちは応援グッズレンタルサービス「すぐチア」を提案する。これはスマートロッカーを活用することで、効率的な応援グッズレンタルを目指すサービスである。

「すぐチア」ではダイバーシティなサービスを考え、応援のハードルを下げる。さらに、応援グッズの廃棄問題にも取り組む仕組みを考えている。今後、社会課題にも目を向け、多くの人がより良いライフを送れるようなサービスを考えていきたい。



東北福祉大学・関沢さんのグループは総勢4人の全員参加でプレゼンをこなした

## あなたの選択で未来を変えよう! ~「みんなでつくる」サイクルで環境に優しい行動を~



代表の齋藤さん

## 顧客とともに作る物語と製品提供

我々は日常生活の一端である道端にゴミが落ちていく風景から着想を得て、ゴミ捨てを抑制するパッケージを開発し、環境に優しい行動を後押しするビジネスモデルを考案した。現在、地球が抱える多様な環境問題を我々が独自に作成する物語の世界に投影させる。物語に登場する主人公がさまざまなアイテムを利用して環境問題の解決へ立ち向かうというストーリーとともに、登場したアイテムを実際に製品化した提供する。

また、物語の制作においては主人公の行動内容を投票で決定するといった顧客参加型の仕組みを盛り込んでいる。顧客が関心を持ちやすい、自主的に環境に優しい行動を起こすことを促すビジネスモデルとなっている。我々が顧客とともに作り上げる物語と製品は環境問題の解決にアプローチしたいと考える人の後押しとなり、その行動の輪は現状を変える一手になると考えている。

## 審査講評

CVG東北審査委員会委員長

蛭名 武雄



19回目の開催となるCVG東北には、15件の意欲あふれる応募がありました。審査を経て選ばれた5件に対し、12月19日に仙台市内でプレゼンによる本審査が行われました。前向きかつ創意工夫がみられるものばかりで、興味深く、また

た楽しんで聞かせてもらいました。候補者の気づき、社会問題を解決したいという思い、挑戦する意志が十分に伝わってききました。

最優秀賞に選ばれた事業構想大学院大学の高橋りなさんらのグループは、「山形粉麵(ラス)」を商品化し、同県米沢市内の店舗や道の駅などで販売を開始しました。市

の内在外国人への試食アンケート、離乳食・子どもの食育へ展開できるかの調査に加え、地元出身ユーチューバーとのタイアップに加え、さまざまなマーケティング活動も評価されました。

特別賞には弘前大学の佐々木慎一朗さんと岩手大学の齋藤啓仁さんの両グループの提案が選ばれました。佐々木さんらは、医療サービスの満足度に着目した診療

のオンライン予約と病院の「ロコ」のウェナサービスを提案しました。佐藤さんらは、生産状況を可視化できるなど農商工連携の課題解決に特化した連携アプリとこの運用サービスを提案しました。

奨励賞には東北福祉大学の関沢さんらと同じく東北福祉大学の齋藤春菜さんらの両グループの提案が選ばれました。関沢さんらは、野球・サッカー・バスケットボールなどのプロスポーツ応援グッズのレンタルサービスを提案しました。齋藤さんらの提案は、ペットボトルなどのリサイクル活動に多くの方が参加できるストーリー性を取り入れた社会的なビジネスです。応募されたすべての皆さんに対し、その挑戦に最大限のエネルギーを送りたいと思います。さらに最優秀賞、特別賞、奨励賞を受賞した皆さんの晴れの舞台での笑顔を見られることは審査委員全員喜びでもありません。本におめでとうございました。

- 第19回CVG東北審査委員会 (敬称略)
- 〈委員長〉 蛭名 武雄 (産業技術総合研究所東北センター所長)
- 〈委員〉 小林 和昭 (東北経済産業局地域経済部長) 伊藤 正弘 (宮城県産業技術総合センター所長)
- 西山 英作 (東北経済連合会理事・東経連ビジネスセンター長)
- 青沼 廣利 (みやぎ工業会専務理事事務局長)
- 菅野 秀幸 (通研電気工業社長)
- 福田 大輔 (福田商会社長)
- 竹本 祐介 (日刊工業新聞社取締役東日本支社長)

- 第19回CVG東北実行委員会 (敬称略)
- 〈委員長〉 宮本 保彦 (東北経済連合会副会長・東経連ビジネスセンター会長)
- 〈委員〉 戸邊 千広 (東北経済産業局長) 浅倉 俊一 (東北ニュービジネス協議会会長)
- 鎌田 充志 (みやぎ工業会理事)
- 梶原 功 (宮城産業人クラブ会長)
- 松村 英一 (山形産業人クラブ会長)
- 百田 昭洋 (福島産業人クラブ会長)
- 竹本 祐介 (日刊工業新聞社取締役東日本支社長)